

綾町埋蔵文化財調査報告書第9集

綾町内遺跡V

2005.3

宮崎県綾町教育委員会

綾町内遺跡V

2005. 3

宮崎県綾町教育委員会

序 文

綾町は宮崎県のほぼ中央部に位置しており、照葉樹林が生い茂り、滾々と湧き水が湧き出る自然の豊かな町であります。古代からの歴史を語る文化財は、町民の財産でもあり、この文化財を保護しながら整備を図り、歴史の謎を解く資料とし後世に残すことは、現代に生きる我々に課せられた責務であります。

近年、本町においても各種の開発事業を実施するのに伴い、開発と保護の調整をいかに図るかが重要な課題となっております。特に平成14年度、15年度においては、本格的な遺跡調査がなされ、綾町の歴史の一端を垣間見るような新たな発見がなされています。

本書は平成16年度に実施した調査の報告であります。本書が文化財保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた諸関係機関や地権者の方々に厚くお礼申しあげます。

平成17年3月

綾町教育委員会

教育長 玉田清人

例　　言

1. 本書は、綾町教育委員会が文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 調査は下記の体制でおこなった。

調査主体 綾町教育委員会

前教育長	森 山 喜代香（～平成16年10月）
教育長	玉 田 清 人（平成16年10月～）
前社会教育課長	玉 出 清 人
社会教育課長	松 木 淳 資
前社会教育課主幹	松 木 淳 資
社会教育課係長	蓮 子 治
庶務担当	社会教育係 井 上 隆 広
調査担当	社会教育係 井 上 隆 広
調査作業員	(社)綾町シルバーパーソンセンター
整理作業員	潤 本 菜穂美

3. 現地調査は、井上が行なった。

4. 本書の編集執筆は井上が行なった。

5. 本書で使用した方位は、全て磁北である。

6. 調査の記録類、出土遺物などは全て綾町教育委員会で保管している。

目 次

本文目次

I 指定文化財一覧及び埋蔵文化財包蔵地地名表	7
II はじめに	
1. 綾町の環境	15
a 地形的環境	15
b 歴史的環境	15
2. 調査の目的	17
a 今年の開発事業について	17
III 試掘調査	
1. 町有地内の自然崩落による陥没部の試掘調査第2次（錦原地区）	21
2. ビニールハウス立て替え事業による遺跡確認調査（割付地区）	22
3. 町営住宅建設に伴う埋蔵文化財事前確認調査（南麓地区）	24

挿図目次

第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・指定文化財位置図	11
第2図 錦原地区調査地位図	21
第3図 割付地区調査地位図	22
第4図 南麓地区調査地位図	24

図版目次

図版1 小出爪地区貝の化石層	15
図版2 尾立遺跡遠景	16
図版3 綾古墳（首塚）	16
図版4 蟹柳駅跡	16
図版5 垂水城跡遠景	16
図版6 床面状況	21
図版7 作業状況	21
図版8 割付地区調査地遠景	23
図版9 割付地区調査対象地	23
図版10 第2トレンチ全景	23
図版11 ピット検出状況	23

図版12	トレンチ内出土遺物（その1）	23
図版13	トレンチ内出土遺物（その2）	23
図版14	南麓地区調査地遠景	25
図版15	南麓地区対象地	25
図版16	第2トレンチ全景	25
図版17	トレンチ内土層状況	25
図版18	トレンチ内遺物出土状況	25
図版19	作業状況	25

表 目 次

表1	町内指定文化財一覧表	7
表2	埋蔵文化財包蔵地地名表	8
表2	平成16年度試掘調査一覧表	17
表3	報告書登録抄	26

I 指定文化財一覧及び
埋蔵文化財包蔵地地名表

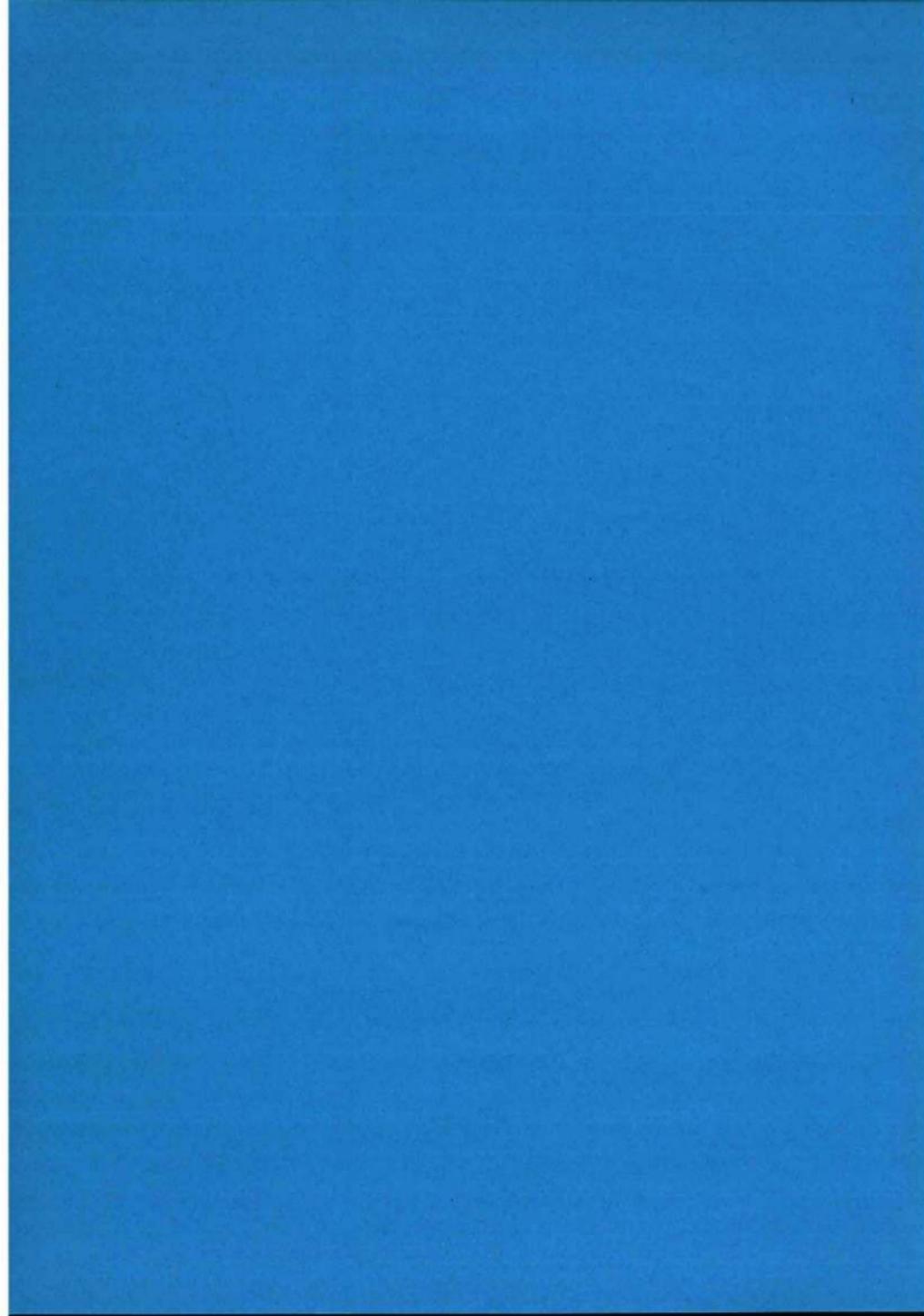


表1 指定文化財一覧

地図番号	文化財の名称	指定	種別	指定年月日
1	川中神社堂宇	町	有形	昭和55年10月1日
2	人野神社社殿	町	有形	昭和55年10月1日
3	黒葛原武家門	町	有形	昭和55年10月1日
4	綾城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
5	垂水城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
6	内屋敷城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
7	肥田木城跡	町	史跡	昭和55年10月1日
8	亜椰駅跡	町	史跡	昭和55年10月1日
9	田村一三宅跡	町	史跡	昭和55年10月1日
10	竹野のホルトノキ	国	天然記念物	昭和52年2月17日
11	綾のイチイガシ	町	天然記念物	昭和60年1月4日
12	綾神社クスノキ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
13	明見神社イチイガシ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
14	刀工田中國廣宅跡	県	史跡	平成8年12月5日
15	綾町古墳(王の塚)	県	史跡	平成8年12月5日
16	綾町古墳(スミ床)	県	史跡	平成8年12月5日
17	綾町古墳(四反田)	県	史跡	平成8年12月5日
18	綾町古墳(首塚)	県	史跡	平成8年12月5日
19	旧清水家住宅	町	有形	平成4年5月19日
20	垂水弁阿闍梨の墓	町	有形	平成8年10月29日
21	野首の古井戸	町	史跡	昭和61年8月5日

表2 埋蔵文化財包藏地地名表

綾南川以南

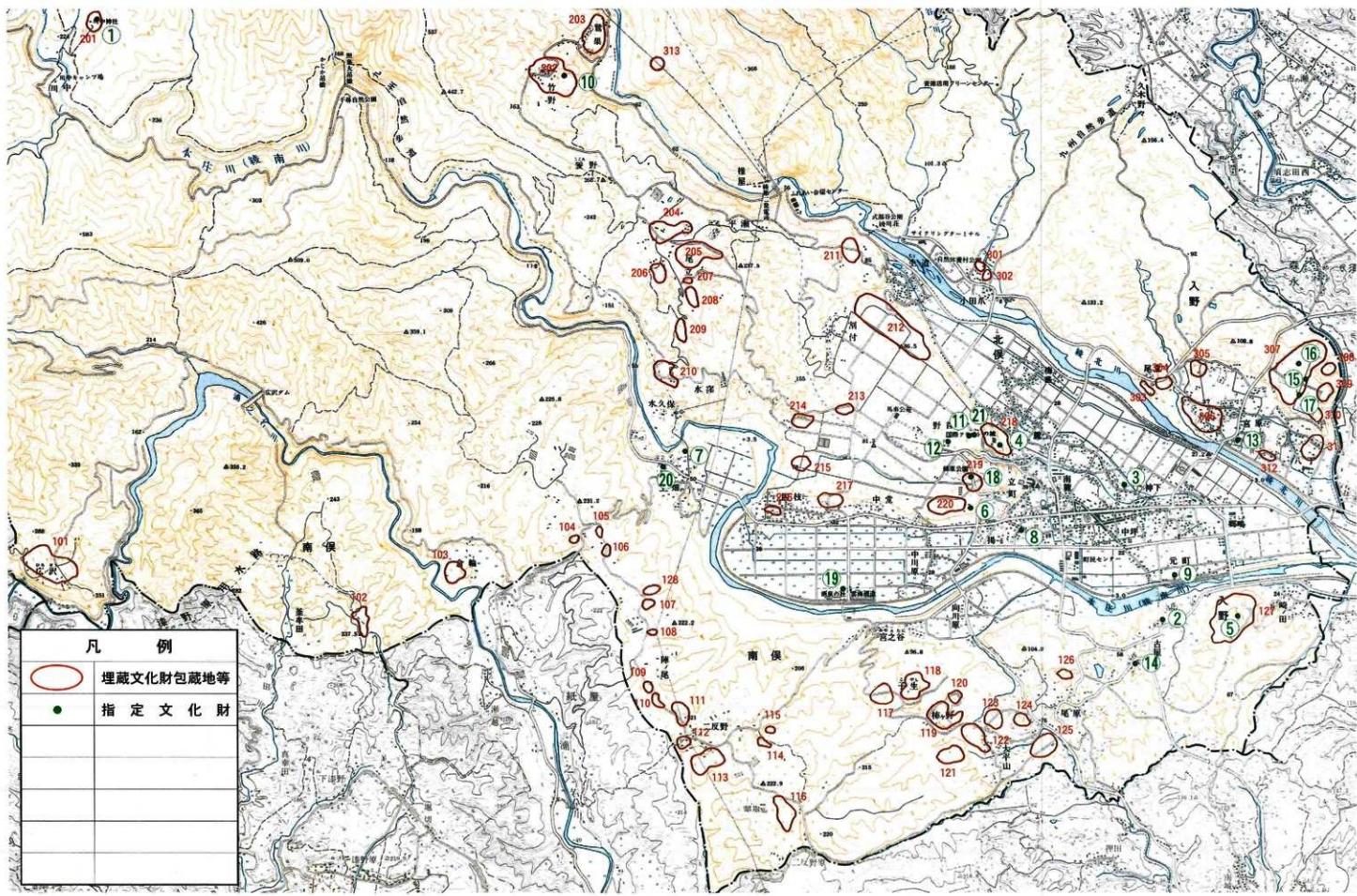
遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	旧番号	備考
101	広沢遺跡	大字南俣字広沢	弥生	散布地		
102	釜牟田遺跡	大字南俣字釜牟田	不明	散布地		
103	倉輪遺跡	大字南俣字倉輪	縄文・中世	散布地		
104	二反野遺跡	大字南俣字陣之尾	不明	散布地	18-21	
105	陣之尾第1遺跡	"	縄文	散布地		
106	陣之尾第2遺跡	"	縄文	散布地		
107	陣之尾第3遺跡	"	縄文	散布地		
108	陣之尾第4遺跡	"	縄文	散布地		
109	梅ヶ野第1遺跡	大字南俣字梅ヶ野	縄文	散布地		
110	梅ヶ野第2遺跡	"	縄文	散布地		
111	二反野第1遺跡	大字南俣字二反野	縄文・弥生	散布地		
112	二反野第2遺跡	"	縄文	散布地		
113	二反野第3遺跡	"	弥生	散布地		
114	二反野第4遺跡	"	弥生	散布地		
115	二反野第5遺跡	"	縄文・弥生	散布地		
116	二反野第6遺跡	"	弥生	散布地		
117	子生第1遺跡	大字南俣字子生	縄文・弥生	散布地		
118	子生第2遺跡	"	縄文・弥生	散布地		
119	柿ヶ野第1遺跡	大字南俣字柿ヶ野	弥生	散布地		
120	柿ヶ野第2遺跡	"	弥生	散布地		
121	大平山第1遺跡	大字南俣字大平山	縄文・弥生	散布地		
122	大平山第2遺跡	"	縄文	散布地		
123	大平山第3遺跡	"	縄文	散布地		
124	小平谷第1遺跡	大字南俣字小平谷	縄文	散布地		
125	小平谷第2遺跡	"	縄文	散布地		
126	尾原遺跡	大字入野字尾原	弥生	散布地		
127	垂水城跡	大字入野字崎之田	中世	城館跡		
128	梅ヶ野遺跡	大字南俣字梅ヶ野	縄文	散布地		H15年度調査

中 央 地 区

遺跡番号	遺跡名称	所 在 地	時 代	種 別	旧番号	備 考
201	川 中 遺 跡	大字北俣字川中	繩文・中世	散布地		
202	竹 野 遺 跡	大字北俣字竹野	繩文	散布地		
203	鷺 巢 遺 跡	大字北俣字鷺巣	繩文・古墳	散布地		
204	中 迫 遺 跡	大字北俣字中迫	古墳	散布地		
205	尾立第1遺跡	大字北俣字尾立	繩文	散布地		
206	尾立第2遺跡	"	繩文	散布地		
207	尾立第3遺跡	"	繩文	散布地		
208	尾立第4遺跡	"	繩文	散布地		
209	大谷第1遺跡	大字南俣字大谷	繩文	散布地		
210	大谷第2遺跡	"	繩文	散布地		
211	鷺ヶ野遺跡	大字北俣字鷺ヶ野	繩文	散布地		
212	別 府 遺 跡	大字北俣字別府	弥生	散布地		
213	愛 宿 下 遺 跡	大字北俣字愛宿下	繩文	散布地		
214	遠 目 塚 遺 跡	大字南俣遠目塚	弥生	散布地		
215	草 莪 遺 跡	大字南俣字草萩	繩文	散布地		
216	四 枝 遺 跡	大字南俣字四枝	中世	散布地		
217	中 堂 遺 跡	大字南俣字中堂	中世	散布地		
218	綾 城 跡	大字北俣字野首	中世	城館跡		
219	内屋敷第1遺跡	大字南俣字内屋敷	古墳	散布地		
220	内屋敷第2遺跡	"	中世	散布地		

綾 北 川 以 北

遺跡番号	遺跡名称	所 在 地	時 代	種 別	旧番号	備 考
301	小田爪第1遺跡	大字北俣字小田爪	弥生・古墳	散布地		
302	小田爪第2遺跡	"	縄文	散布地		
303	岩堂第1遺跡	大字入野字岩堂	弥生・古墳	散布地		
304	岩堂第2遺跡	"	弥生・古墳	散布地		
305	尾堂第1遺跡	大字入野字尾堂	弥生・古墳	散布地		
306	尾堂第2遺跡	"	弥生・古墳	散布地		
307	スミ床遺跡	大字入野字スミ床	古墳	散布地		
308	宮原遺跡	大字入野字宮原	弥生・古墳	散布地		
309	四反田第1遺跡	大字入野字四反田	古墳	散布地		
310	四反田第2遺跡	"	古墳	散布地		
311	四反田第3遺跡	"	古墳	散布地		
312	八町遺跡	大字北俣字八町	縄文・弥生	散布地		
313	椎屋遺跡	大字入野字椎屋	縄文・古墳	集落		H14年度調査



第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・指定文化財位置図(1/25,000)

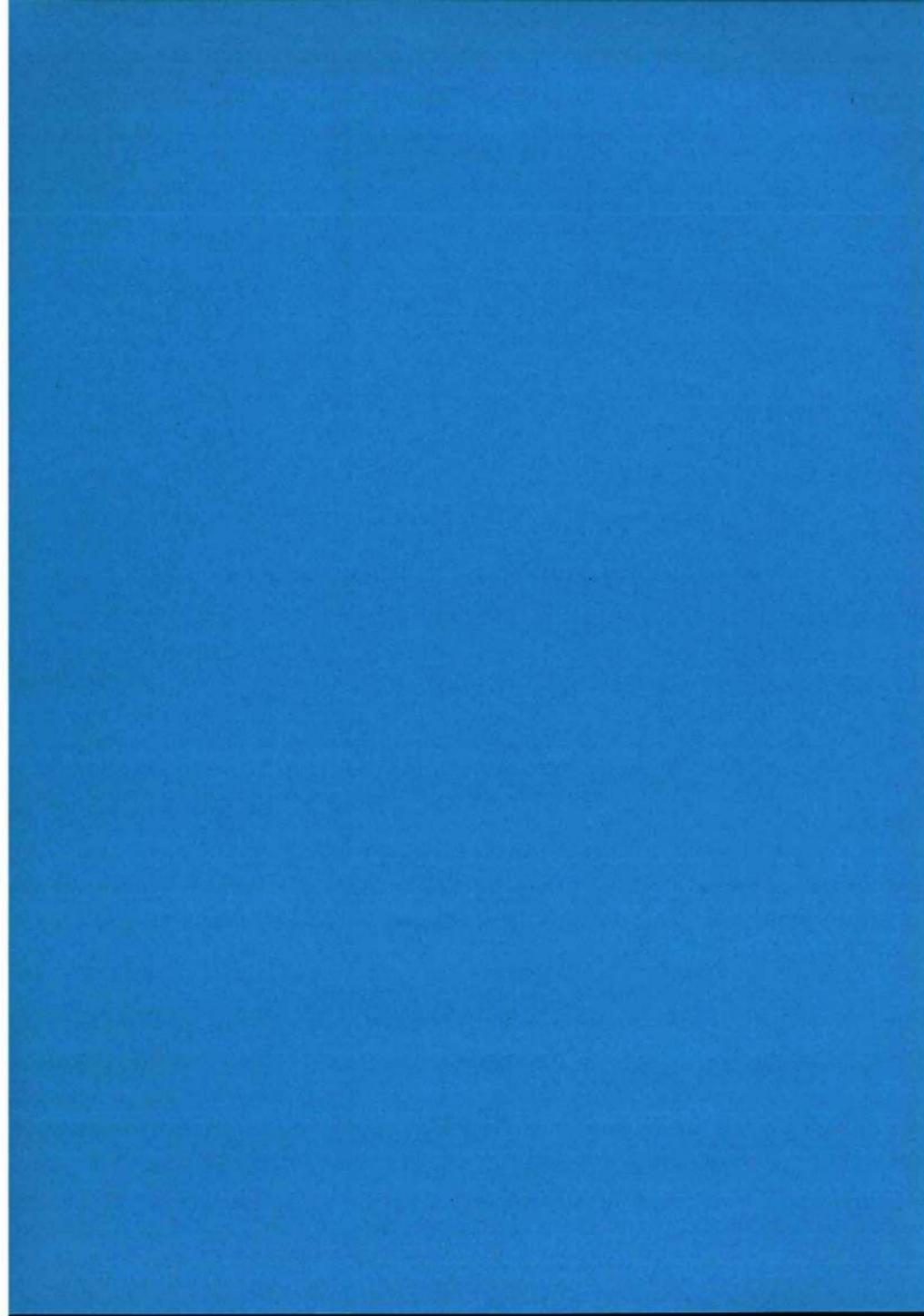
II はじめに

1 綾町の環境

- a 自然環境
- b 歴史的環境

2 調査の目的

- a 綾町の今年度の開発について



1. 綾町の環境

a. 地形的環境

綾町の地形は大きく見ると、東と北隣は国富町の段丘地形及び山岳稜線で境されている。南は高岡町と接し、標高200mの丘陵地形が広がる。西は須木村と山岳の稜線で接している。町の80%は山林が占め、綾北川・南川に囲まれた地域には段丘地形と扇状地が広がっている。

一方地質を見ると、山岳地形を構成するのは古第三紀の日向層群（四十万累層群）である。この地層は砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層からなり、NE-SW方向の走向を示している。段丘地形を構成するものは新第三紀中新世の宮崎層群である。この地層は基底礫岩から始まり、砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層から成る。宮崎層群の地層は、日向層群に比べて固結度が弱いため侵食されやすく、そのため平坦な段丘地形がよく発達している。宮崎層群は日向層群を傾斜不整合に覆い、砂岩層には貝の化石が多く含んでおり、町内の至るところで貝の化石が発見されている。二反野の丘陵には、高位段丘礫層が堆積している。錦原付近の段丘は、中位段丘礫層から成る。概ね町内の地表付近にはアワオコシ、小林軽石、アカホヤなどのテフラが層をなして降下堆積している。



図版1 小田爪地区貝の化石層

b. 歴史的環境

町面積の80%を森林が占める綾町は、大淀川水系の綾南川・綾北川の合流点の扇状地に位置しており、集落は平坦地にある中心地区と、その周辺丘陵地及び山間高台地に点在している。

綾町の遺跡は、現在のところ平成7・8年度の詳細分布調査で約60箇所が確認されており、それらの遺跡のほとんどは、町中央部を流れている綾南川の南岸、綾北川の北岸、そしてその両河川に挟まれた中間丘陵地に分布している。

旧石器時代の遺跡は、現在のところ見つかっていない。しかしながら、平成元年に調査が行なわれた中迫地下式横穴墓群にて、豊坑埋土中に旧石器と見られる石器の剥片が発見されている。

縄文時代の遺跡は、平坦地には見られず、そのほとんどが丘陵地に分布している。縄文時代の表採資料としては、早期、後期のものが多く見つかっている。特に綾町で県内の縄文後期の代表的な遺跡として挙げられるものが、中央丘陵地に所在する尾立遺跡である。この遺跡は、大正7年京都大学の濱田耕作博士によって調査され、その後も何度も宮崎考古学会や宮崎大学等により調査がなされている。主な遺物は、縄文後期の土器のほか磨製石斧、石錘、石鎌などが出土している。また早期の遺物では、押型文土器や貝殻文系の土器の破片が見つかっている。

弥生時代の遺跡は現在のところ見つかっていないが、詳細分布調査において高杯や壺などの破片が、割付地区周辺などにおいて見つかっている。

古墳時代の遺跡は、宮原台地や錦原台地にその存在が確認されている。特に宮原地区では県の文化財に指定されている綾町古墳が3基所在している。また、四反田古墳の付近では昭和43年の畑地改良事業により地下式横穴が1基発見され副葬品として土師器・須恵器計7点や人骨が出土した。この地下式横穴の築造の時期については、須恵器の形式などから古墳時代後期と考えられている。古墳の所在する台地の一段下の宮原台地には、古墳時代の土師器や須恵器が多量に表採されており、集落の存在を予想させている。一方、錦原台地には古墳1基が所在している。その付近の内屋敷遺跡では、天井部の崩落により地下式横穴が1基発見され、県の文化課によって昭和56年調査がなされている。一方、尾立遺跡の附近の中迫遺跡では、ゴボウトレンチャーの掘削により陥没が起り、県文化課によって発掘調査がなされ3基の地下式横穴が見つかっている。この調査で直刀、鉄斧、イモガイ製貝輪、平玉等が出土し、また遺存状況の悪い女性の人骨も出土している。この遺跡で2基の竪坑の切りあいがみられたことは県内でもあまり例がなく特徴的である。中迫地下式横穴墓群の営まれた時期については出土遺物の構成などから5世紀末から6世紀前半が考えられている。また、平成14年度調査の行わされた椎屋遺跡では、出土遺物から古墳時代前期と考えられる焼失住居跡も発見されている。



図版2 尾立遺跡遠景



図版3 綾古墳（首塚）



図版4 亜櫛駅跡



図版5 垂水城跡遠景

古代の遺跡について調査は、なされていないが文献等によると「亜那駅」の存在が予想される。近年、町中心部の試掘調査によっても土師質の上器片が出土しており、今後周辺に遺跡が発見される可能性も高いといえる。

中世については、南北朝期を経て綾氏、伊東氏、島津氏の支配下にあった「綾城」の存在がある。綾城は伊東氏時代には、48城の一つとなり山東の拠点として重要な役割を果たした。このほかにも、町内には山城として垂水城跡、そのほかの城跡として肥田木城、内屋敷城などが残っている。特に垂水城、内屋敷城については、現在でも堀や土塁が良好に残っている。

参考文献

- 綾町 1979 『綾町郷土誌』
綾町教育委員会 1995 『中迫地下式横穴墓群』
石川恒太郎 1969 「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』
第13集 宮崎県教育委員会
面高哲郎 1996 「内屋敷地下式横穴群」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県
日高孝治 1993 「四反田地下式横穴」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県

2. 調査の目的

a. 綾町の今年度の開発について

今年度の開発対応の調査は、公共1、個人1、自然崩落による調査1であった。それらについては担当課や事業者との協議の上、教育委員会が主となり、トレーニング法による試掘調査等を行った。しかしながら、今年度もその他の民間・個人開発等に対しては、十分に対応がなされたとはいえない。発掘調査が事業者に課せられた義務であることを周知徹底させる努力を今後も続けていきたい。

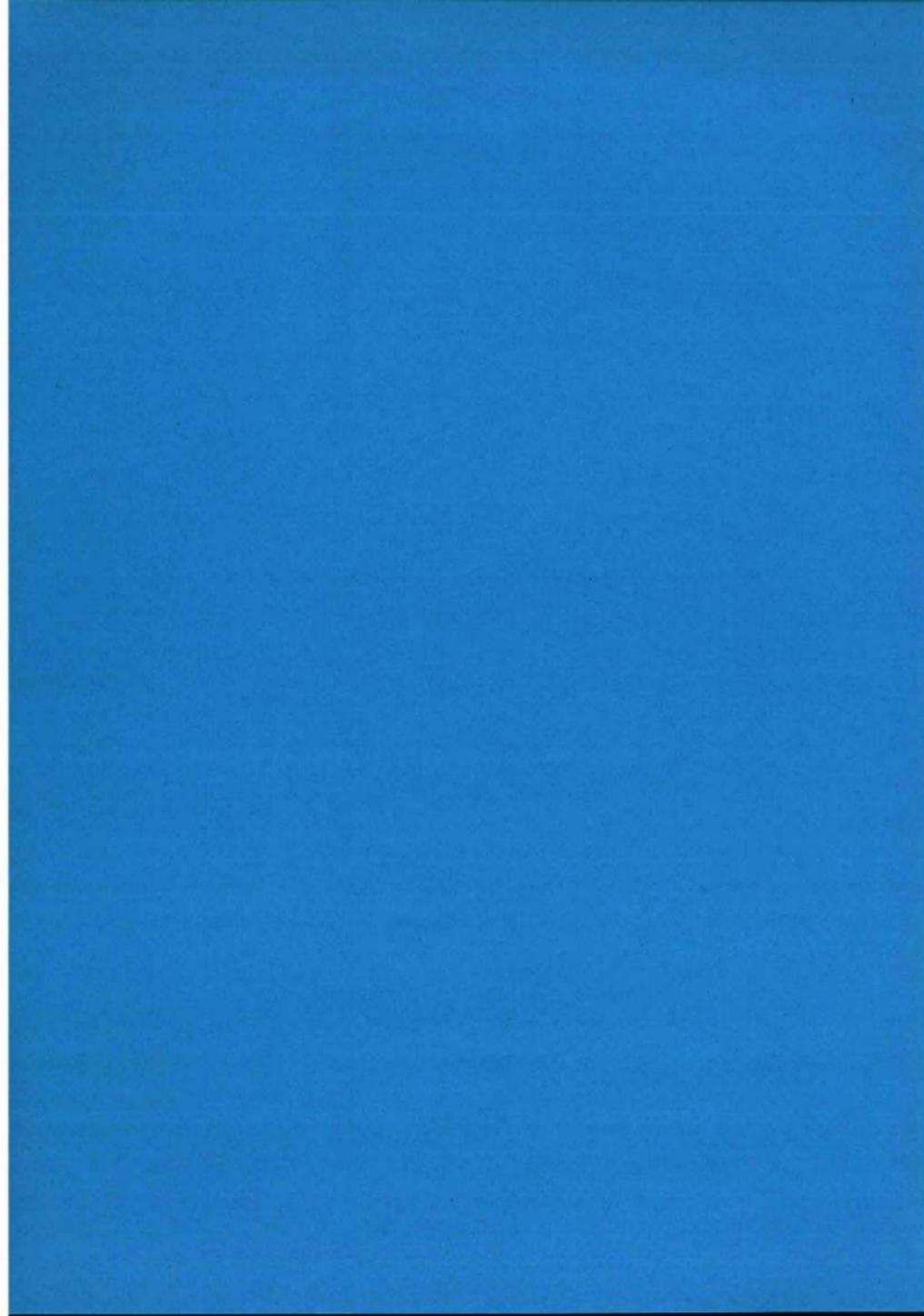
地区名	調査期間	原因	開発主体	成果
1 錦原地区	平成16.12.8~12.13	自然崩壊による陥没	-	なし
2 割付地区	平成16.12.14~12.16	ビニールハウス建設による支柱床堀り	個人	上器、ピット
3 南麓地区	平成17.3.24~3.28	公共住宅建設	-	土器片

III 試 堀 調 査

1 町有地内の自然崩落による陥没部の試掘調査第2次
(錦原地区)

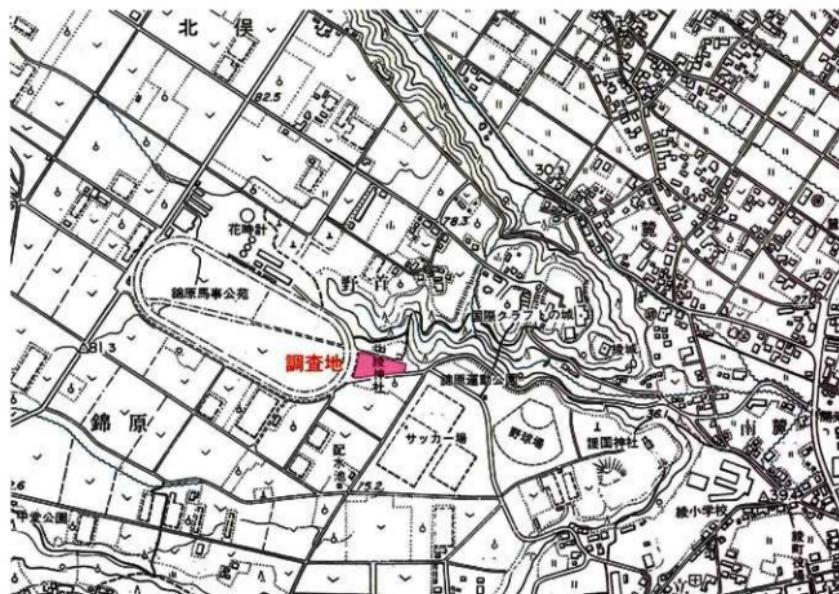
2 ビニールハウス立て替え事業による遺跡確認調査
(割付地区)

3 町営住宅建設に伴う埋蔵文化財事前確認調査
(南麓地区)



1 町有地内の自然崩落による陥没部の試掘調査第2次（錦原地区）

昨年度から引き続き人为的な壁が検出された場所の調査をおこなった。昨年度から覆屋をかけているわけであるが台風の時期には被害を受け修復をおこなった時期もあった。調査は壁の検出及び床面の掘り下げを中心におこなった。当初人为的に掘られたと考えられていた壁の傷等は重機によるものと判明し、床面からは重機のものと考えられる爪の痕跡も検出された。結局、この地域一帯の陥没についても、重機により木の根等を埋め立てた後にそれが腐って出来たものと判断し、調査を終えた。



第2図 錦原地区調査位置図 (1 / 10,000)



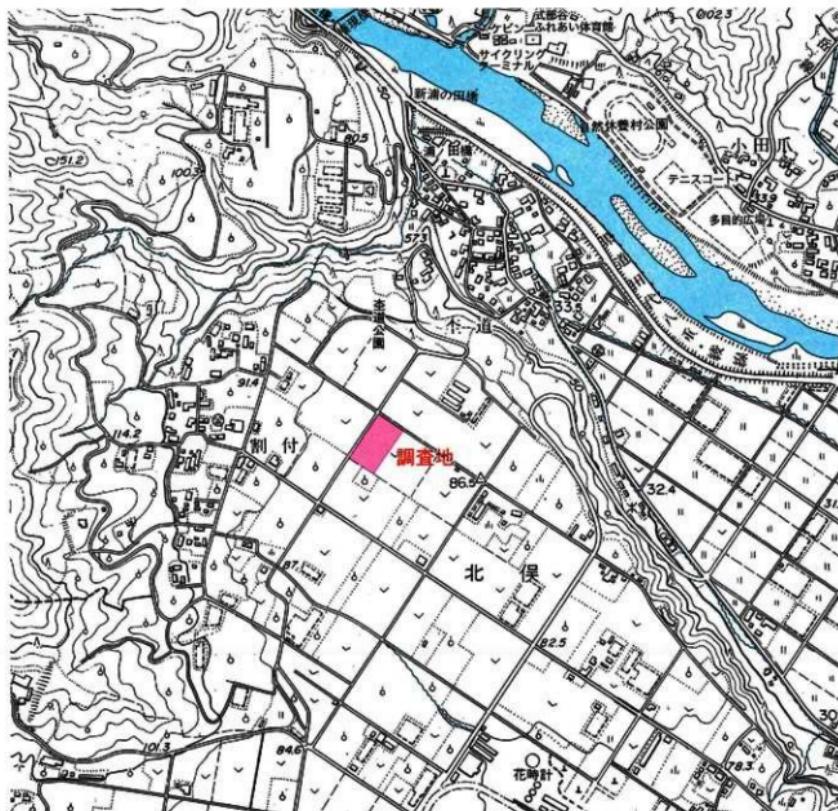
図版6 床面状況



図版7 作業状況

2 ピニールハウス立て替え事業による遺跡確認調査（割付地区）

割付地区は、錦原台地の北西、尾立遺跡の所在する山間部の裾に広がる地区で、標高は約87mである。この地域一帯では、県の調査でも遺跡の存在が確認され、また土器などの表探も多く出来るところである。今回の調査の契機は、文化財パトロール中にピニールハウスの立て替えにより支柱を埋めるために掘った排土から、大量の土器が出土していたためである。土地の所有者に事情を聞いたところ、支柱を立てる穴はすでに掘っており、これ以上の土地の掘削はないということであったが、遺跡確認のため試掘調査を行うこととなった。調査は3日間で行い、合計9本のつぼ堀によるトレーナーを入れた。すべてのトレーナーにて土器などの出土が見られ、また一部のトレーナーではアカホヤ面にピットや土坑などが検出された。土器に関しては、縄文晩期のものと考えられるものや古墳時代と考えられるものも出土している。トレーナーについては、土層断面の注記及び写真撮影の後に埋め戻した。



第3図 割付地区調査位置図 (1/10,000)



図版8 割付地区調査地遠景



図版9 割付地区調査対象地



図版10 第2トレンチ全景



図版11 ピット検出状況



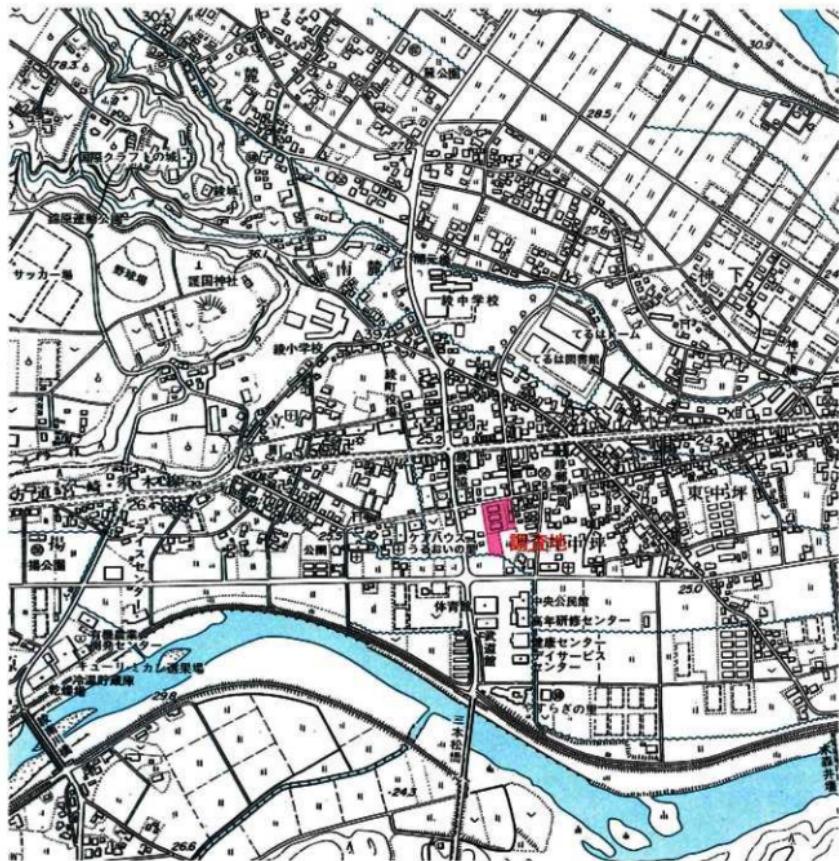
図版12 トレンチ内出土遺物（その1）



図版13 トレンチ内出土遺物（その2）

2 町営住宅建設に伴う埋蔵文化財事前確認調査（南麓地区）

南麓地区は、綾町の市街地のほぼ中心部に位置する地区で、標高約23mほどである。調査の契機は、この場所に公共住宅建設の計画があがつたためである。担当課と協議した結果、試掘調査を行うこととなつた。調査は3日間の日程でおこなつた。調査はこの場所が元営林署事務所の跡地ということでありアスファルトが残っている場所もあり、重機を使用することとなつた。対象地内に合計9本のトレーナチを入れた。ほとんどのトレーナチは埋め立てたような地層であったが、一部地山と考えられる粘土質の地層も見られた。どのトレーナチにおいても遺構は検出されなかつたが、一ヶ所のトレーナチにてすり鉢と考えられる土器の底部が見つかった。それ以外のトレーナチにおいては、遺物の出土は見られなかつた。トレーナチについては、調査終了後に埋め戻しをおこなつた。



第4図 南麓地区調査地位置図 (1/10,000)



図版14 南麓地区調査地遠景



図版15 南麓地区調査対象地



図版16 第2トレンチ全景



図版17 トレンチ内土層状況



図版18 トレンチ内遺物出土状況



図版19 作業状況

表3 報告書登録抄

フリガナ	アヤチョウナイイセキ
書名	綾町内遺跡V
シリーズ名	綾町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第9集
編集者名	井上 隆広
発行機関	宮崎県綾町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1
発行年月日	2005.3.31



